

授業科目	*母性看護学演習				単位	1		
履修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU21307J		
開講年次	3	開講時期	前期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-1 DP4-2			
担当教員	古賀 玉緒、前田 幸							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周産期の対象の健康状態に応じた看護を実践できる能力を育成することを目的に、周産期の事例を用いて看護過程の展開方法や看護技術を学ぶ。 ・看護過程演習では、母性看護方法論における知識をもちいて多角的に対象を捉え、根拠をふまえてアセスメントを行い、包括的に対象を捉えた看護計画を立案する。 ・母性看護技術演習では、産婦人科病棟や地域における実務経験のある教員の指導のもと、基本的な母性看護技術を演習する。 <p>この講義は対面授業として実施する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護における看護過程の展開方法を理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 母性看護に関する基本的知識を述べることができる。 収集した情報を根拠に基づいてアセスメントできる。 対象の全体像をとらえることができる。 対象の状態に応じた診断ができる。 診断ごとに目標(退院までに期待される成果)が設定できる。 目標に応じた看護計画が立案できる。 母性看護学に必要な技術の方法を理解できる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	50	0	45	0	0	5	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	20		5				25	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	30						30	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)						5	5	
態度(DP4-2)			40	0			30	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
標準レベルを達成したうえで、他者との連携や意見交換を主体的に取り組むことができる。また、看護過程演習や母性看護技術演習においては常に根拠を考え対象を捉え、基本に沿った技術を習得することができる。				<ol style="list-style-type: none"> 母性看護における看護過程の展開方法を理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 母性看護に関する基本的知識を述べることができる。 整理した情報を根拠に基づいてアセスメントできる。 対象の全体像をとらえることができる。 対象の状態に応じた診断ができる。 診断ごとに目標(退院までに期待される成果)が設定できる。 				

		6) 目標に応じた看護計画が立案できる。 2. 母性看護学に必要な技術の方法を理解できる。		
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	母性看護における看護過程 (古賀、前田、山田、新郷、林) 1. ウェルネス診断にもとづく母性看護過程の概要について解説する 2. 看護過程の方法について解説する 事前学習・事例を活用しウェルネス診断にもとづく母性看護過程の方法について解説する。 3. 課題事例の解説(褥婦)	講義	4/5 学科オリエンテーション時に提示する。 *4/12 講義にて提出する。	60
2	進行 1 に同じ	講義・演習	進行 1 に同じ	
3	看護過程の展開(1) (古賀、前田、山田、新郷、林) 一産褥期・新生児期の事例を用いて情報収集から看護計画立案を行うー 1. 全体質疑応答 課題事例の(産褥期)退行性変化、進行性変化 心理適応のアセスメントの視点について解説する。 2. 担当教員との質疑応答・個人ワーク。 3. 課題事例の解説(新生児)	講義 演習	予習: 課題事例(褥婦)の情報 収集、アセスメントの実施 * Class room または担当教員メールへ提出する(提出日時は講義内で提示する)	60
4	進行 3 に同じ	講義 演習	進行 3 に同じ	
5	看護過程の展開(2)(古賀、山田、前田、林) 一産褥期・新生児期の事例を用いて情報収集から看護計画立案を行うー 1. 全体質疑応答 課題事例の(新生児期)のアセスメントの視点について解説する。 2. 担当教員との質疑応答・個人ワーク 3. 課題の解説(全体像、看護診断、看護目標・看護計画)	講義 演習	予習: 課題事例(新生児)の情報 収集、アセスメントの実施 * Class room または担当教員メールへ提出する(提出日時は講義内で提示する)	60
6	進行 5 に同じ	講義 演習	進行 5 に同じ	30
7	看護過程の展開(3) (古賀、前田、山田、新郷、林) 一産褥期・新生児期の事例を用いて情報収集から看護計画立案を行うー 1. 全体質疑応答 課題事例の全体像および褥婦の看護診断、看護目標・看護計画のまとめ方について解説する。 2. 担当教員との質疑応答・個人ワーク	講義 演習	予習: 課題事例(褥婦・新生児)の全体像、看護診断、看護目標・看護計画を実施 * Class room または担当教員メールへ提出する(提出日時は講義内で提示する)	60
8	進行 7 に同じ	講義 演習	進行 7 に同じ	
9	看護過程の展開 (古賀、山田、前田、新郷、林) 1. 担当教員との質疑応答 ・個人ワーク	講義 演習	復習: 課題事例(褥婦・新生児)の全体像、看護診断、看	30

			護目標・看護計画を追加修正する。 (最終提出日時は講義内で提示する)	
10	母性看護技術演習(1)(古賀、山田、前田、新郷、林) 1. 母性看護技術演習の方法について説明する 2. 周産期の看護技術の方法について手順をまとめる	講義・演習	予習:詳細は講義の中で提示	
11	母性看護技術演習(2)(古賀、山田、前田、新郷、林) 周産期の看護技術をグループに分かれて演習する。 A/B 2グループにわけ、交代で実施 * 演習以外のグループは講義(帝王切開時の看護過程について)および課題を実施	講義・演習	詳細は講義内で説明する	30
12	進行11に同じ	講義演習	予習:講義の中で提示	
13	母性看護技術演習(3)(古賀、山田、前田、新郷、林) 周産期の看護技術をグループに分かれて演習する。 A/B 2グループにわけ、交代で実施 * 演習以外のグループは講義(帝王切開時の看護過程について)および課題を実施	講義演習	講義の中で提示する	30
14	進行13に同じ	講義演習	進行13に同じ	
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

理解に必要な予備知識や技能	母性看護学概論、母性看護方法論において学習した内容を、課題プリントも活用して復習しておいてください。
テキスト	<p>系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学[2] 森恵美著 医学書院 2020</p> <p>病気が見えるVOL10 産科 第4版 上田森夫他編 MEDIC MEDIA 2018</p> <p>ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 太田操著 医歯薬出版 7 2017</p> <p>ナーシンググラフィカ母性看護学3 母性看護技術 横尾京子他 メディカ出版</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>病気が見えるVOL9 婦人科・乳腺外科 第4版 井上裕美他編 MEDIC MEDIA</p> <p>系統看護 女性生殖器 成人看護学9 末岡浩他著 医学書院統 適宜、資料を配布します。</p>
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>母性看護学実習に必要な科目です。</p> <p>講義は母性看護学概論・母性看護方法論で得た知識をふまえて解説や質疑応答や意見交換を取り入れて進めていきます。そのため、欠席の無いよう体調を整え、課題の達成にむけて積極的・自主的に予習・復習や自己練習に取り組みましょう。なお、不明な点は教科書を見直す、教員に確認するなどして解決しましょう。講義中の携帯電話の使用は禁止です。</p> <p>講義開始後の連絡は Class room より行います。</p> <p>講義中の座席は指定します。不都合のある場合は相談して下さい。</p> <p>看護過程演習・技術演習では小グループに分けて担当教員を配置します。感染予防の観点からも指定された教室以外の移動は控えて下さい。</p> <p>技術演習では、根拠と正しい方法を理解したうえで、身だしなみを整えて臨み、準備・後片付けも自主的に行いましょう。感染予防ガイドラインを遵守し感染予防に努めましょう。</p>
達成度評価に関するコメント	<p>評価は、試験、レポート、その他について総合的に行います。</p> <p>なお、“その他”については、レポートの提出期限や提出の仕方、講義中の態度、技術演習の取り組み姿勢などで評価します。</p> <p>上記の評価点が不可の場合は、全て試験にて再試験を行います。</p>